

令和 8 年度

県立高等学校入学者選抜

学力検査問題

国 語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまでは、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 問題用紙は、表紙を入れて11ページあります。
また、問題は大問【一】から【四】まであります。
- 3 答えは、必ず解答用紙の所定の解答欄の枠内に収まるように記入
しなさい。
- 4 答えは、HB以上の濃さの黒鉛筆を使用して記入しなさい。
(シャープペンシル等も可。)
- 5 「やめ」の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。

【一】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「私」は四十代の独身男性であり、「伊都川日報」で記者をしている。弟の「亮二」が海外出張中に大けがをし、さらに亮二の妻である「明世」も病気で入院した。そのため、「私」は亮二の娘である生後二か月の「なずな」を預かることになった。「私」は慣れない育児に苦戦するが、乳児検診で親身になってくれる佐野医院の医師をはじめとする近隣の人たちに助けられ、彼らとの間に温かな関係を築いていく。それから一か月ほど過ぎ、明世の退院が決まった。

私が案じていたのは、いずれそこへ車椅子が必要な、満身創痍の亮二が戻ってくるからだ。帰国すれば、亮二はリハビリに通わなければならぬ。明世さんとお父さんが交代で付き添うにしても限界がある。そのときどうするか。ほんとうに困ったときは、私が手伝いに行かざるをえないだろう。ベビーシッターでも頼まないかぎり、ほかに方法がない。逆に、私の立場からすると、静山に出かける口実にもなるわけで、そうすれば定期的に「なずな」の顔を拝むこともできる。ともあれ、早ければあと数日、遅くとも一週間から十日のうちには、万端整えてわが姪っ子を母親のもとに送り届けることになるだろう。

(中略)
《美津保》に立ち寄り、私はママに、なずなの母親の退院が決まったことを告げた。

「けつこう早かったわねえ、このあいだ退院できそうだって話を聞いたばかりのような気がするけど、でも、よかった。ずっと入院なんてことにならなくて」

彼女はそこでいったん言葉を止めて、私の顔を見つめた。
「また目の下に隈が出てわね。ちょっと蒸し暑いけど、こういうときはあったかいものを飲むと楽になるわよ」

こういうとき、のなかには、ふたつの意味がある。わかっている、それを言葉や行動に出さない人もいれば、すぐ顔に出してしまう人もいる。彼女はもちろん後者に属していた。しばらくして、適度な深さのあるガラスコップ

に湯気の立つオレンジの飲みものをたっぷり入れて、カウンターに出してくれた。

「みんなには知らせたの？ 日報の人とかシンゴロ先生とか」

「これ、おいしいですね。蜂蜜が入ってるかな」

質問には直接応えず、私は先に飲みものについての感想を述べた。

「ちょっと古くさいメニューだけどね、ホットオレンジレモネード。レモンは搾ったのよ。でもオレンジはジュース使っちゃった。悪くないでしょ？ 卵酒みたいなものだから」

「アルコールも入ってるんですか？」

「ふつうお酒は入れないのよ。リキユールくらい垂らしてもいいけどね。とにかく甘いし、疲れたときに効くってこと」

酸味と甘みのバランスが、じつによかった。じんわりと胃にしみて、汗の種類が変わってくる。なずなは、黒ずぐりのような瞳を輝かせて、ベビーカーの中から私の手もとをじつと見つめている。その視線に気づいて、顔を見ながら熱い液体をわざとふうふう言いながら飲んでやると、ふべつ、という、不思議な音を出した。ふべつ。あ。ふべつ。濁音が連なって出てくるのは、唇の使い方がわかってきたということなのだろうか。それとも、いつかのように、自分も飲みたいという合図なのだろうか。

「それで」とママが話を元に戻した。「周りの人に知らせたの？」

「まだ、全員には。これから連絡するつもりです」

「そう……さみしくなるわねえ。お母さんは嬉しいでしょうけど。あたしが離乳食作ってあげるなんて言ってたのに」

私は黙ったままホットオレンジレモネードの残りを飲み干した。熱いうちに飲まない効き目がないような気がしたのだ。なずなはまだこちらを見ている。そして、濁音と清音を、オレンジとレモンを混ぜた愛らしい声を発し、ときどき留めておいた輪ゴムが外れたような、急な動きで肘から先を動かす。

「ほんとはさよならするときは、必ず連絡してね」

「もちろんです」

部屋に戻ると、なずなの要求どおりミルクを飲ませ、おむつを替えて、首筋と膝の裏にたまった垢あかをきれいに透き徹とほった白魚しろいさのような垢あかを拭い

問1 二重傍線部a「口臭」の本文中での意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 暗黙の了解
- イ 強い原動力
- ウ 絶好の機会
- エ 表向きの理由

問2 二重傍線部bの漢字の読みをひらがなで書き、cのカタカナは漢字に直しなさい。(丁寧に書くこと)。

b 万端 c ナガ(め)
問3 傍線部①「こういうときはあったかいものを飲むと楽になるわよ」とあるが、このときの《美津保》のママの「私」に対する心情はどのようなものか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 私生活や仕事を犠牲にし、気が進まないままなずなの面倒を見てきた
- イ 睡眠時間を削ってまで大事に育てたなずなにもう二度と会えなくなる
- ウ 育児に奮闘する「私」を気遣うとともに、今まで懸命に世話をしてきたなずなを母親に返す「私」の寂しさを感じて励ましている。
- エ なずなの母親の退院が決まり、無事に役目を終えた安心感と嬉しさで張り詰めていた気持ちが緩んだ「私」を労わっている。

てやる。日報のみんなに明世さんの退院をメールの一斉送信で知らせて、時計を見る。佐野医院はまだ診療中だ。なずなのもうひとつの家族には、あとでゆつくり電話しよう。ミルクを飲んで濁音が減り、だんだん動きの鈍くなってきたなずなの目がとろんとしている。それをナガめている私の脇も次第に重く下がってくる。車のドアの閉じられる音が聞こえる。しばらくすると羽虫のような、ぶぶんという音が耳の近くで響く。虫が入り込んだのならすぐにも追い払わねばならない。なずなが刺されでもしたら大変だ。頭の隅でそう思いながら、急激に深まってくる眠りの前で身体が言うことを聞いてくれない。玄関のドアの下から冷えた空気が床を這うように流れ、頬の横を通り過ぎていく。その上から、なずなの身体でほのかにあたたかくなった空気が覆い被さって、私の顔を包む。私は守っているのではなく、守られているのだ、この子に。なずなに。

私も あるとき
誰かのための虹だったろう

あなたも あるとき
私のための風だったかもしれない

(堀江敏幸「なずな」による。設問の都合上、一部改変してある。)

(注) ※1 静山…地名。亮二、明世夫婦の自宅がある。

※2 ママ…「私」が住むマンションの一階にある喫茶店《美津保》のオーナー。

※3 シンゴロ先生…近くにある佐野医院の医師。

※4 黒ずぐり…果実の名前。

問4 この文章を読んだある生徒は、傍線部②「きれいに透き徹った白魚のような垢」という表現の効果について「ノート」にまとめた。次の「ノート」の空欄 X に入る説明として最も適当なものを、後のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

【ノート】

「白魚のような」 白く細く美しいものをたとえる比喩表現。	「垢」 1 汗・脂・ほりなどが皮膚の表面にたま ってできた汚れ。 2 俗世間の汚れ。
---------------------------------	---

「きれいに透き徹った白魚のような垢」という表現の効果

↓

X を印象づけようとしている。

- ア なずなの清らかな様子と、「私」の愛情の深さ
- イ なずなの無邪気な様子と、「私」の神経質さ
- ウ なずなの成長の速さと、乳児の世話の大変さ
- エ なずなの肌のなめらかさと、この日の蒸し暑さ

問5 本文の最後には、詩「生命は」の一部が引用されている。次の【資料】は、詩の作者、吉野弘が同じ題で書いた詩の全文である。また、【生徒と先生の会話】は、本文と【資料】を読んだ生徒たちが先生と話し合っている場面である。これらを踏まえて、後の問いに答えなさい。

【資料】

生命は
生命は
自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい
花も
めしべとおしべが揃っているだけでは
不十分で
虫や風が訪れて
めしべとおしべを仲立ちする

生命はすべて
その中に欠如を抱き
それを他者から満たしてもらうのだ

私は今日、
どこかの花のための
虻だったかもしれない
そして明日は
誰かが
私という花のための
虻であるかもしれない

【生徒と先生の会話】

先生 「生命は」という詩を読んでもらいましたが、本文の作者がこの詩を引用した意図はわかりましたか。

生徒A この詩は、生命は自分一人では成り立つことができない、ということと、「花」をたとえにして詠んでいる詩ですよ。本文の「私」となずなのような関係であるということをお伝えしようとしているのかなと思います。

生徒B 確かに、赤ん坊のなずなは、「私」や周りの大人たちに支えられて生きています。しかし、「私」は自分で生きています。

生徒A なずなのおかげで「私」は近隣の人たちと温かな関係を築いていったんですよ。「私」はなずながお世話になった人たちを「I」と表現しているんですから。

生徒B しかし、【資料】の詩の傍線部のように「生命はすべて／その中に欠如を抱き／それを他者から満たしてもらおうのだ」とまで言えるのか不思議です。「私」はさう思っているのでしょうか。

生徒A 本文に「II」という、なずなに対する思いが記されている箇所がありますよ。

生徒B なるほど。なずな自身は気づいていないはずだけれど、「私」を支えているんですね。

先生 そうですね。このように、誰かを支えつつ、誰かに支えられているという経験は、皆さんにもきっとあるはずですよ。

【生徒と先生の会話】の空欄 I、II に当てはまる語句

(1) 【生徒と先生の会話】の空欄 I、II に当てはまる語句を本文から抜き出しなさい。ただし、Iは十二字で、IIは二十七字(句読点含む)で抜き出し、それぞれ始めの五字を答えなさい。

(2) 【生徒と先生の会話】の傍線部「誰かを支えつつ、誰かに支えられている」という経験とあるが、あなたにとってのそのような経験、または今後、相手とどのように支えあっていたか、次の条件に従って書きなさい。

〈条件1〉 自分が相手と、どのように支えあったことがあるか、または支えあっていたか、具体的な書くこと。ただし、相手は人間でなくともよい。

〈条件2〉 「I」と「II」について、お互い支えあったことがある(支えあっていた)こと。「I」に続く形で、三十五字以上五十字以内で書くこと。

【二】 次の【文章1】、【文章2】を読んで後の問いに答えなさい。

【文章1】

日本と西洋との自然観のちがいがよく表れているのが庭である。内と外の中間地点である庭に、どのように自然を取り入れるか。その方法に、両者の自然に対する意識のちがいがうかがえる。

自然を取り入れるといっても、庭に草木をたくさん植えたり、水を流したりして自然らしさを演出しようとするのは、むしろ西洋のほうである。日本はむしろ逆だ。日本でもっとも有名な庭といえば、室町時代につくられた京都の龍安寺の石庭を思い出す人は多いだろう。石庭の名のとおり、この庭を構成しているのは石と砂である。いわゆる枯山水とよばれるものだ。枯山水は、石と砂だけで、山のつらなる様や、滝や河の流れを表現する。そこでは植物はかえってじゃまであり、極力排除される。

それに対して、西洋の庭は花が中心だ。色とりどりの、なるべく珍しい花がたくさん咲いているほど美しい庭とされる。西洋の庭の楽しみは、花を見ることといってもいい。ガーデニングとは、基本的には季節によって木を植え替えたり、さまざまな花を咲かせたりすることである。

しかし、そうだとすると植物をたくさん植えている西洋の庭の方が、自然を豊かに取り入れているような気がする。だが、そこに西洋と日本の自然観の大きなちがいがあある。西洋の庭に植えられる草花は枯れば取り替えられる。つまり自然は交換可能な物として扱われている。いいかえれば、そこでは見えているものがすべてである。

それに対して、日本の枯山水は、見る者の想像力によって、目には見えない自然のいとなみと一つになるための「A」的な装置だといえる。そこではたんに、砂が海を表しているという理解するだけでは足りない。だいたいは、そこに実際に水がたゆたっているのを積極的に想像し、そのイメージを押し広げていくことである。

(田中真知「美しいをさがす旅によう」による。設問の都合上、一部改変してある。)

(注) ※1 幾何学…図形や空間の性質等を研究する学問。

※2 類縁性…互いに近い関係にあること。

※3 荘重…おごそかで重々しい様子。

問1 【文章1】二重傍線部a「咲か」と活用形が同じものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 買いたい本を探している。 イ 後で行くと言った。
- ウ 花を持つ人がいる。 エ 遅れた理由を話さない。

問2 【文章2】二重傍線部b「現在でもしばしば話題となる」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 自立語はいくつあるか。数字で答えなさい。
- (2) 副詞を抜き出して答えなさい。

問3 【文章1】空欄Aには「自然」の対義語であり、「自然の事物や現象に人間が手を加えること」という意味の熟語が入る。漢字二字で答えなさい。

問4 【文章2】傍線部①「この美学」を説明したものとして最も適当なもの、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 美は明確な秩序のある原理が生み出すという考え方
- イ 美は時代を超えて通用する規準が生み出すという考え方
- ウ 美は優美さより荘重さから生まれるという考え方
- エ 美はギリシャ彫刻の比例関係から生まれるという考え方

【文章2】

アメリカも含めて、西欧世界においては、古代ギリシャ以来、「美」はあ

る明確な秩序を持ったもののなかに表現されるといえる。その秩序とは、左右相称性であったり、部分と全体との比例関係であったり、あるいは基本的な幾何学形態との類縁性など、内容はさまざまであるが、いずれにしても客観的な原理に基づく秩序が美を生み出すという点においては一貫している。逆に言えば、そのような原理に基づいて作品を制作すれば、それは「美」を表現したものである。

典型的な例は、現在でもしばしば話題となる八頭身の美学であろう。人間の頭部と身長が対八の比例関係にあるとき最も美しいという考え方は、紀元前四世紀のギリシャにおいて成立した美の原理である。ギリシャ人たちは、このような原理を「カノン(規準)」と呼んだ。「カノン」の中身は場合によってはおわり得る。現に紀元前五世紀においては、優美な八頭身よりも荘重な七頭身が規準とされた。だが七頭身にせよ八頭身にせよ、何かある原理が美を生み出すという思想は変わらない。ギリシャ彫刻の持つ魅力は、この美学に由来するところが多い。

(中略)

だがこのような実体物として美を捉えるという考え方は、日本人の美意識のなかではそれほど大きな場所を占めているとは思われない。日本人は、遠い昔から、何が美であるかということよりも、むしろどのような場合に美が生まれるかということにその感性を働かせて来たようである。それは「実体の美」に対して、「状況の美」とでも呼んだらよいであろうか。

例えば、「古池や蛙飛びこむ水の音」という一句は、「古池」や「蛙」が美しいと言っているわけではなく、もちろん「水の音」が妙音だと主張しているのでもない。ただ古池に蛙が飛びこんだその一瞬、そこに生じる緊張感を孕んだ深い静寂の世界に芭蕉はそれまでになく新しい美を見出した。そこには何の実体物もなく、あるのはただ状況だけなのである。

(高階秀爾「日本人にとって美しさとは何か」による。設問の都合上、一部改変してある。)

問5 Aさんは【文章1】、【文章2】の内容を理解するために、次の表のよう

		日本の美意識		西洋の美意識	
抽象	具体	枯山水 ↓ 植物は極力排除される	ガーデニング ↓ 自然はIである	「II」の美	「III」の美
		・どのような場合に美が生まれるか	・何が美であるか		

(1) 右の表にある空欄I・II・IIIに当てはまる語句を、【文章1】・【文章2】から抜き出さなさい。ただし、Iは六字で、II・IIIは二字で抜き出すこと。

(2) 次のア～オは、【文章1】、【文章2】を学習した生徒の発言である。本文の内容を踏まえたものとして適当なものを、次のア～オのうちから二つ選び記号で答えなさい。

- ア 西洋では彫刻や庭が誰にでもわかる規準に基づいて作られていて、美に関して日本以上に豊かな感覚を持つことがわかったよ。
- イ 日本では移り変わる自然やその時々の一場面を客観的に見ながら美を見出していくところが、西洋との大きな違いだね。
- ウ 思い描いた情景を押し広げることや状況から美を見出していく日本人の感性が、枯山水や俳句で表されていてわかりやすかったよ。
- エ 多種多様な草花を植えて視覚的に捉えるという西洋の自然の取り入れ方が、日本の自然観と違って興味深かったよ。
- オ 西洋の庭が花を中心としているのに対し、日本の庭は植物に加えて石や砂も活用して自然を演出している点が印象的だね。

【三】 次の【文章1】、【文章2】は「十訓抄」の一部である。【文章2】は【文章1】について述べた漢文の引用部分である。これらを読んで後の問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、一部改変してある。

【文章1】

※1 庄子、山を過ぎたまふに、木を切るものあり。直なるをば切りて、山に行かれたとき、真つ直ぐな木の方をゆがめるをば切らず。また、人の家にやどりたまふに、雁二つあり。注せられたとき、主よく鳴くをば生け、よく鳴かざるをば殺しつ。明くる日、弟子、庄子に申していはく、「昨日、山中の木は、直なるを切りて、ゆがめるをば切らず。また、家の二つの雁は、よく鳴くをば生け、鳴かざるをば殺しつ。よき木も切れ、よく鳴かざる雁も殺されぬ」と申せり。庄子のいはく、「世の中のためし、これにあり」と答へたまへり。

(注) ※1 庄子…中国の戦国時代の思想家。 ※2 雁…鳥の種類。

【文章2】

木雁一篇須く記取ル	【書き下し文】 木雁一篇須く記し取るべし	【現代語訳】 木と雁の一篇の話はしっかりと記しとめておきなさい
致身材与ニ不材間	A 材と不材との間	我が身を良材と悪材の中間に置いておくのが一番いいのだ

問1 【文章1】二重傍線部a「たまへり」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。
問2 左の字は【文章2】二重傍線部b「記」を行書で書いたものである。○で囲んだ部首にみられる「点画の省略」という行書の特徴と同じ特徴がみられる部首を、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

記

アイイ方ウネエ女

問3 【文章2】空欄 A に入る書き下し文を答えなさい。

問4 【文章2】傍線部①「材」、②「不材」は【文章1】においてどの語にあたるかを示した組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 材 … 直なる 不材 … 鳴かざる
- イ 材 … よく鳴く 不材 … 直なる
- ウ 材 … 鳴かざる 不材 … ゆがめる
- エ 材 … ゆがめる 不材 … よく鳴く

問5 次の二つの文は、【文章1】の直前と直後の文である。これらを踏まえて【文章1】の教訓の空欄 X に入る文として最も適当なものを、後のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

【直前】 おほかた、世にある道のわづらはしく、振舞ひにくきこと、世の中を非難してくさくさいこと、いさゝか面倒でもりてくさくさいこと、薄氷を踏むよりもあやふく、けはしき流れに棹さすよりも、はなはだしきものなり。敷しことばなる。

【直後】 かかるにつけても、よく情慢を捨てて、身をつつしむべしと見えたり。ことばなる。

【文章1】の教訓

良材でも悪材でも結果が同じところから、 X と説いている。

- ア 世を生きる困難さを薄氷を踏み外すよりも難しいとたとえ、おごり高ぶるべき
- イ 世を生きる困難さを薄氷の上を歩くよりも難しいとたとえ、慎み深く生きるべき
- ウ 世を生きる困難さを激流に棹を流すよりも難しいとたとえ、面倒がないように振る舞うべき
- エ 世を生きる困難さを激流に棹をさすよりも難しいとたとえ、何事も敷しい態度で世を渡るべき

【四】 Aさんのクラスでは短歌を学習した後実際に創作することになった。「中学校生活」をテーマに、提示された上の句に続く下の句を創作し、発表する予定である。次の【授業スライド】と【生徒と先生の会話】を読んで後の問いに答えなさい。

【授業スライド】

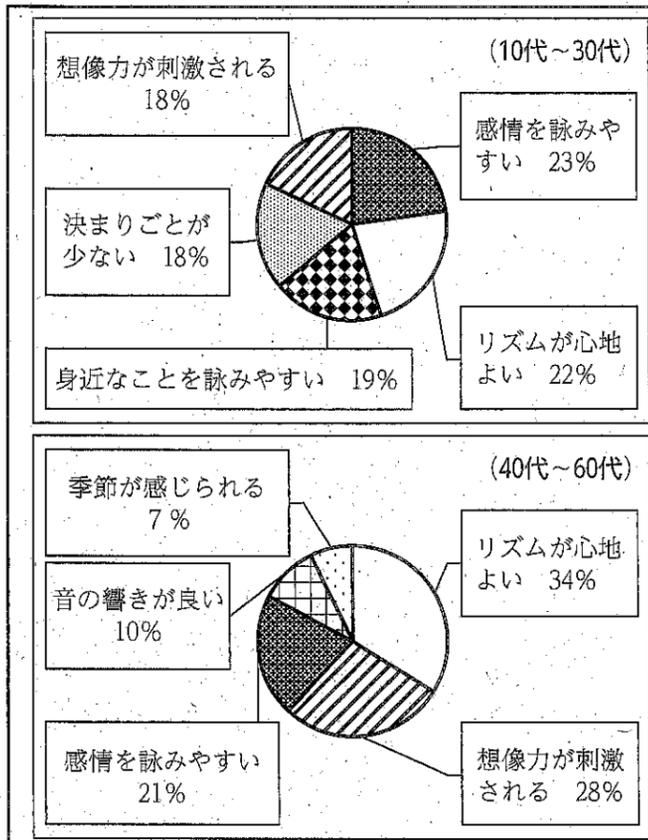
授業の内容 「短歌を詠もう」

【上の句(五・七・五)に続く下の句(七・七)を創作して詠む】

テーマ「中学校生活」

テスト中 ふと目に入る 友達の()

「短歌の好きな特徴」(年代別)に関するアンケート結果



【生徒と先生の会話】

先生 短歌を発表する前に、【授業スライド】のアンケート結果のグラフから何か気づいたことはありませんか。

Aさん どちらも「リズムが心地よい」の項目の割合が大きいです。

Bさん 若い世代の回答の割合は差が小さく、年配の世代はそうではないことから、年配の世代は好きな理由が違ったよってることがわかります。

Cさん それぞれのグラフを比べると、

先生 よく気づきましたね。では、短歌を詠むうえで意識したこともあわせて、作品を発表してください。

Aさん 私は対比を意識して、心に残っている光景を詠みました。

テスト中ふと目に入る友達の 窓の外見つめる夏の大虹

Bさん 素敵だね。皆が机に向かっている中で、一人、外の虹に気づいて、心を奪われている姿が想像できるよ。

Cさん 内と外、遠景と近景という対比が印象的だね。「窓の外見つめる」を「見つめる窓に」にしたら字余りは解消できるよ。大きく美しい虹とそれを見つめる友達、そして「テスト中」という言葉からは静けさも感じられて、情景がいろいろ想像できるね。

Aさん そうだね。前の授業で短歌は少ない文字数でも、情景や心情が想像できる楽しさがあると学んだね。先生がそう言ったのを思い出したよ。作品がもっと良くなるように工夫するね。ありがとう。

Bさん 私は比喩で場面が想像しやすくなるように意識しました。

テスト中ふと目に入る友達の 扇のようにめくるページ

Cさん なかなか気づかないところに注目してよく詠んだね。「扇のように」からページをめくる姿がリアルに想像できるよ。

Aさん たしかにそうだね。あと、「ように」を同じ意味の「ごとく」にする

と歌の雰囲気も変わってくるよ。

Bさん 言葉で表現するっておもしろいね。いろいろ試して仕上げるよ。

問1 空欄 I に当てはまるCさんの発言として最も適当なものを、

次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア どの世代も「リズムが心地よい」という回答が最多で、「音の響きが良い」という回答から短歌は聴覚に影響することがわかります。

イ 若い世代は「身近なこと」、年配の世代は「季節」に関する回答が回答にあり、詠む題材や視点の違いがあることがわかります。

ウ 年配の世代は若い世代よりも「想像力が刺激される」という回答の割合が低いので、想像力はそれほど刺激されないことがわかります。

エ 若い世代の項目が詠む側の視点での回答であるのに対し、年配の世代の項目は鑑賞する側の視点の回答だということがわかります。

問2 波線部のAさんの発言は話し合いを進めるうえでどのような役割を果たしているか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 学習を思い出させることで話し合いの方向性を整理する役割

イ 皆の発言とグラフの回答を関連付けて話し合いを進める役割

ウ Cさんの発言と学習した内容を結び付けて皆で確認する役割

エ 議論を白熱させて話題から外れがちになるのを修正する役割

問3 二重傍線部①「言った」を尊敬語を用いた表現に改めなさい。

問4 【生徒と先生の会話】にみられる会話の特徴として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 発表者が作品の背景や心情を伝えることで、生徒同士で作品の奥深さや新たな発見を共有している。

イ 先生が進行と作品の評価に徹することで、話し合いをおして生徒は各自の作品を添削している。

ウ 生徒が改善点を指摘するだけでなく、作品の良い点を伝えることで、推敲への意欲を高めている。

エ 生徒同士がグラフの「短歌の好きな特徴」について発表し、議論しあ

うことで、短歌のもつ魅力を味わっている。

問5 Bさんは発表の後、次のように作品を仕上げた。その意図を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

テスト中ふと目に入る友達の めくるページ扇のごとく

ア 「めくるページ」で一呼吸おき、上の句を強調しようとした。

イ 下の句の語順を入れ替えて、めくる動作を印象づけようとした。

ウ 余韻を持たせる表現にし、下の句の緊張感を和らげようとした。

エ イメージできる具体的な動作で結び、親近感をもたせようとした。

問6 あなたが中学校生活をテーマに短歌を詠むとしたら、どのような場面をどのよう工夫して詠みたいか。次の〈条件1〉～〈条件4〉に従って書きなさい。

〈条件1〉 二段落構成で、一五〇字以上二八〇字以内の文章とし、題名は書かずに本文から始めること。

〈条件2〉 原稿用紙の適切な使い方に従い、漢字や仮名遣い、句読点や記号などは適切に用いること。

〈条件3〉 第一段落では、短歌で詠みたい中学校生活の場面を明記し、その場面を選んだ理由を具体的に書くこと。

〈条件4〉 第二段落では、第一段落であげた場面を短歌で詠む際に工夫したいことを二つ書くこと。【生徒と先生の会話】やグラフの項目を参考にしてもよい。